

令和7年度野洲市歴史民俗博物館協議会要録

日 時 令和7年11月18日（火）14:00～16:00
会 場 歴史民俗博物館研修室
出席委員（敬称略）今井早奈枝（副委員長）・大橋信弥・母利美和・中島誠一
・山口孝志・上品充朗
欠席委員（敬称略）難波洋三・井上一稔・永田征二・小瀨玲子
事務局 大岡哲也館長・進藤武専門員・齊藤慶一学芸員・渡邊貴洋学芸員
傍聴人 1名

教育長あいさつ（館長代読）

協議会委員、友の会や市民の皆様をはじめ多くの方々にお支えいただき、深く感謝申し上げます。本日の会議では、今年度の事業報告や次年度の事業計画等について、委員の皆様のご意見をいただきたい。

委員紹介・職員紹介（自己紹介）

令和7年5月1日から山口孝志委員（中学校校長会代表）並びに上品充朗委員（地元高等学校代表）に就任していただきことを報告。併せて各委員自己紹介及び職員紹介を行った。

展示解説

会期中の令和7年度秋期企画展「野洲川下流域の暮らしの変貌―発掘調査にみる古代・中世―」について、担当学芸員が展示解説を行った。

報告事項

J R奈良線の人身事故により難波洋三委員長が急遽欠席となったため、今井早奈枝副委員長に議事進行をお願いした。

1) 令和6年度事業報告について

○委員 体験学習の参加者がコロナ禍前の水準に戻っていないので、現状にこだわらず楽しい企画を組み入れて集客を図れないか。

●事務局 参加者数については、令和4年度に料金改定を行った影響もあり、緩やかな回復傾向にとどまっている。

2) 令和7年度事業中間報告について

○委員 「三上山の妙見さん」や「杉田静山の世界」では、文化財を散逸させず丁寧な展示をされているという印象だった。三上山は野洲市民にとってのシンボルであり、それらに関連付けた「特別企画展」の開催は大きな意義がある。また、民芸品の展示も歴史と考古が共同で工夫しながら、制作過程のイラストや動画作成に取り組めば、もっと市民にとって身近な企画展になると考える。

○委員 秋期企画展は、丁寧で真面目に取り組んでおられることがよく理解できた。ただし、

説明を聞かないと、一般の来場者には難しいと感じた。最近の各種の博物館では展示内容を分かりやすくするべくポップやキャッチコピーを活用している事例が増えている。これによりキーワードを設けて来館者の興味を引くことができるので、集客に繋げることができる。

○委員 秋期企画展は、ストーリーや変遷をたどるための繋がりがほしい。中世の生活を各論で展示すれば良いと思う。

○委員 ポップ絵などイラストを用いて現代の生活との違いや近似点をわかりやすく展示してほしい。昨年度の「こども博物館」では、イラストを活用していてわかりやすかった。また、文字を減らし、大きくした方が良い。

○委員 マイクロフィルムの電子化は、セルロイドベースのものは難しいが、史料写真の電子化で痛みの激しいものはなかったか。

●事務局 若干あった。そのような史料は紙焼きしていたものを代用し電子化を試みたが、できないものもあった。

3) 令和8年度予算要求概要について

○委員 安土城考古博物館で忍者の体験ができるような取り組みがなされているように、銅鐸にこだわることなく、新しい企画を考えてほしい。

4) 令和8年度事業計画（案）について

館内燻蒸に伴う臨時休館については、令和8年度事業から削除願うことを説明した。

○委員 どのように燻蒸しているのか。

●事務局 研修室にテントを設置し、文化財をその中に入れて燻蒸していたが、薬剤が生産中止になり次年度の予算化は見送った。

○委員 エキヒュームが使用禁止になり、博物館ではカビ防止ができないと大変な問題になる。試行錯誤してやるしかないが、湿度管理に努められたい。

5) 令和8年度秋期企画展（案）について

○委員 ややまとまりに欠けるように感じる。例えば、近年墨書土器の出土が増えており、改めて県下の墨書土器を全て集成し展示することなど、西河原木簡にこだわらなくとも良いと考える。

その他

「主要展覧会一覧」「入館者等の推移」「課題と対応」について説明した。

○委員 空調機は、開館当時の古い機械であるので、省エネにはならない。燻蒸ができないのであれば、余計な負担が発生することになる。このことを前面に押し出して予算確保に努めてほしい。貴重な資料を守ることに関心のある地元議員を巻き込むことも有効である。

○委員 令和7年7月に国の認定を受けた「野洲市文化財保存活用地域計画」を活かし、博物館でも取り組まれない。

閉 会